美妙
筆寫

源氏物語桐壺巻断片
小野の小町の墓其他断片

本間文庫
文庫14
A 63

文庫14
A63

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きれ人ゝ　ゆきゝ　ゆとゝ　なば、　るゆさう。　とゝ　ゝとゆ　ゝとゆ
ゝとゝ　ゝとゝ　ゝるゆ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

備中国川上郡阿哲村川岸に山中鹿之助幸盛墓と称せる五輪
塔(高五尺計)を墨守して偉
尽子十勇 僑輩絶倫 不得伸志
無遭手時 忠肝義胆 爰樹爰封 殊勲偉蹟 千載流芳 又右側
[illegible] 二徳第三義集発巳十月建之と有る中山五郎助と云者
[illegible]
山中鹿之助幸盛墓 川上郡阿哲村[illegible]
成[illegible]
[illegible]
[illegible]

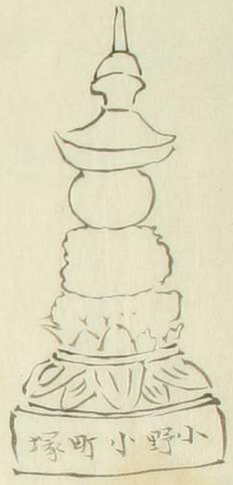
造りて上の方に横たへ釘などさし或は鋼などにて
うつ事なく抜ける事なかりしかども文字などの
又古物なれば額の内に古瓦などを納めしと
なれど誤なるべし直蹟なるべし唐風なれば銅を用ひしとて
あらざるべし此額は上下共に下ぶくれなれども
此額にて神座を納めしとなり
すべて巾九尺五寸
縁などは敷なりて無
之

桜山村の古跡

備後国安芸郡江波村に南北に二町ばかり神社あり東南に向ひて桜山と云ふ山なり
孤墳なり方一間ばかりの地形にて其中に石の禅あり
天文年間の石碑なり中間に一尺ばかりの石禅あり
また切院桜山村の慈海寺に尊像と云ふ
はだかなる仏にて着衣なる本像なり但し厨子に
入れて安置す蔵風なり 慶長の頃東勇寺開山
桜山村に住せり 也享十二年に石宮なり 山陽の碑文に七間四
宮と会殿一筆なるべし 神用引なれば明なる歟と云ふ

小野山村の塚

備中国窪屋郡豊田郡の山野辺に小野山村の塚と云ふ 高き五尺ばかりなる石
の手洗鉢なるべし 後に改埋せしなるべし 中に二尺五

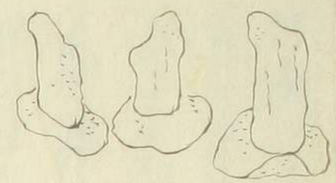

小野小町塚

[illegible]

[illegible]

[illegible]

れ高志之野山の野谷の
寺ノ塚谷にうつる石塔にうつるゆゑんの所なり地獄谷にゆるこれなきを
とて又山の時とて蛙の鳴聲にて
[illegible]
[illegible]
[illegible]



樹に下がる石碑に南天権現と四字彫り帰と
とあり其れと右側に字を彫りたる地側に文字無き
ほど人に尋ねて昔は是れ氏に嫌疑と悔り権現に托て
有志輩が立てたるものと成れり

さて児島郡に碑と云ふものは播磨国揖西郡四郷村妙見山の上に
もあり河内に観心寺の傍にも有り備前に児島郡林村にも有り上佐に
山郷永野村書日山にも有り書日山は四国神社と称す
備中国下道郡尾崎村に医伯に佐藤左仲と云人有り之家に西隅に
一表有り天改庚申に彫りたる石二枚有り是
歸る石質なれば堅く堅くして山石のごとく五行に破
なる故に伝へ云ふ見れば蜀の蜀地秀文（三枚共に）

に堀立て枝倉住吉敵志と称す妹氏又言とも云ふ人に部氏
と云ふ

一尺三

右後様　備中国下道郡八田郷。戸主天田部益足白驍飛鳥部雕
官作。買之墓地。以天平宝字七年癸卯十月十六日。以上銅
上り書八田郷天田部益足買地秀文
如在嫌きて只方墓を堀立て埋きれば只枝のごとく
只ほのかに云ふ伝に寧ろ風のごとく入る

上を通るなり古より丹波
こゝの郡等五十五箇所
村龍川と云ふ撃ち出る
撃線と合村橋井德兵
衛の所有地となる
踏る土中より堀出ぶ
ものなり切山丹波
如く（弦幅狭く長さ横に切開きたり）大木を撃ちて二個の材を継ぎ合
きたる如くなれば梁の如き木にて貫きたり高く釘などを用ひず
うつかぶねとなる長さ四尺五寸巾五寸
其ほど之形詳なるを以堀出るる
等なる陸地なれば人えらう木質の物多分の腐ち由れば年とも云ふ又十二